

二〇二一年 千葉大学本番レベル模試

(国際教養(通常型)、文、法政経学部) 国語

解答・解説・採点基準

全3問 80分 200点満点

第一問 (100点)

〈現代文 山本理顕『権力の空間』空間の権力…個人と国家の「あいだ」を設計せよ〉

解答

- 一 アⅡえそらごと イⅡ紡績 ウⅡ模範 エⅡちみつ オⅡ弊害
カⅡさくしゅ キⅡ緩和 クⅡわいしょうか ケⅡじゅぼく コⅡ官僚

二 物が実現する前に「活動と言論と思考」の内容が先立っており、それを思考する人と実現する人が分かれているという思い込み。(五十八字)

三 ユートピア

四 建築そのものがまったく新しい建築的提案をもつような試みは、根拠となる思想を欠くがゆえに、偶発的な思いつきに過ぎないと見なされるから。

五 住宅問題とは十分な量の住宅が合理的に利用できていないだけの問題であるがゆえに、支配階級による労働階級の搾取を排除して、労働者問題を解決すれば自ずと解決する問題だという意味。

六 手段としての建築

七 知という触知できないものを触知できる物に変換することによって、知が実現されるのみならず実現された物が知に影響を与えるという点で、知は初めて思想の様式として他者に共有されるような持続する存在になるということ。

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容(？点)の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がYという論理関係になっていなければ、？点減点」の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はない(Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない)。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

一 (20点満点)

- * 各2点。部分点なし。

二 (12点満点)

1. 物として実現する前には活動や言論や思考が先立っている、という内容(6点)
 - * 「物として実現する」は、「何かが「物化」される」など、それに類する形で表現していても可。
 - * 「活動や言論や思考」は、「活動や言論や思考の内容」、ないし単に「内容」などとしていても可。これに相当する語句を欠く場合には**4点減点**。
2. 思考する人と実現する人が分かれている、という内容(6点)
 - * 「内容」を思考する人と実現する人で「役割が分担される」、といった形で説明していても可。たんに「思考すること」とその「実現」が別のものであることを述べるにとどまり、別々の人が関与することへの言及を欠く場合は**2点減点**。
 - * 「実現する」は、何かが「物化」される」など、それに類する形で表現していても可。

- * 文末が「〜(という)思い込み」など、それに準ずる体言になっていない場合、**2点減点**。
- * 制限字数(五十字以上六十字以内)に収まっていない場合、**12点減点**。

三 (8点)

四 (16点満点)

1. (「提案」の説明として) 建築そのものが新しい建築的提案を持っている、という内容(6点)
 - 「新しい建築的提案」という点は、従来の思想では理解不能である、という形で説明していても可。これに相当する要素を欠く場合は**2点減点**。
 2. 1の建築がそれに先立つ思想を欠いている、という内容(4点)
 - * 建築に思想が「先立つ」という点は、建築が思想に「従属する」という形で説明していても可。これに相当する要素を欠く場合は**2点減点**。
 3. (理由の直接的説明として) 2のゆえに1は偶発的な思いつきに過ぎないと見なされる、という内容(6点)
 - * 2の帰結として書かれていない場合は**2点減点**。
 - * 「偶発的な思いつきに過ぎない」「は、歴史概念を認識していない」「根拠がない」などでも可。
- * 文末が「〜(である)ため/から」など、それに準ずる理由を表す表現になっていない場合、**2点減点**。

五 (16点満点)

1. 「住宅問題」の説明として、住宅問題とは十分の量がある住宅が合理的に利用できていない問題である、という内容 (6点)

*「量」ないし「数値」上では十分存在するという観点に言及できていない場合は2点減点。

2. (何に対して「二次的」か、の説明として) 支配階級による労働階級の搾取、という内容 (4点)

*資本主義的生産方法による労働者問題」という形で説明していても可。ただし、「労働者問題」の内容を具体化できていない場合は2点減点。

3. 住宅問題は、2の労働者問題を解決すれば、自ずと解決する問題である、という内容 (6点)

*労働者問題を解決」する、という点は、「労働者階級が生産手段の全ての所有を獲得する」、「労働者階級による独裁を実現する」という形で説明していても可。

* 文末が「〜(という)意味」など、それに準ずる体言になっていない場合、2点減点。

六 (8点)

七 (20点満点)

1. 知という触知できないものを触知できる物に変換することで、知は初めて持続したものになる、という内容 (8点)

*「知」がそもそも「触知できない」ものであるという点に言及できていなければ4点減点。

2. 1により知が実現されるだけでなく、実現された物が知に影響を与えうるものになる、という内容 (6点)

*「知が実現されるだけではない」、という内容は、知と物の影響関係が双方向的である、という点が説明できていれば可。この側面を明示できていなければ2点減点。

3. 2により知は初めて思想の様式として他者と共有される持続的存在になる、という内容 (6点)

*「思想」ないし「観念」の様式という観点に言及できていなければ2点減点。

*「持続的存在」は、「リアリティを持った存在」などでも可。これに類する表現を欠く場合は2点減点。

* 文末が「〜(という)こと」など、それに準ずる体言になっていない場合、2点減点。

問題二（七〇点）

〈古文 『岩屋の草子』〉

解答

一 a イ b ア c ア

二 C

三 ア 見苦しいのを

イ そろえて

四 海士に身を落として、刈り取った海藻で独り火をともして過ごす惨めな境遇になるとは思いもしなかったと嘆く心情。

五 ほら穴暮らしなのに、美しく、高貴な出であることを窺わせ、教養も信仰も備えているように思われるところ。

六 二位の中将がひと目見た姫君と相愛の者になりたいと思ったということ。

七 中将様は姫君を終生、添い遂げたい相手だと思えば、今夜は姫君に会わずに帰りなさい

採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

一 (各4点 計12点)

* それぞれ完答のみ。

二 (4点)

* 完答のみ。

三 (8点満点)

ア 5点満点

1. 「うたてげなる」を「異様だ、いかにも変だ、見苦しい、いやな様子だ、いかにもいやだ」などと訳せていなければ、3点減点。

* 「うたて」の語義である不快感を訳に出せていなければ、3点減点。「ぼろぼろの」など、着物を客観的に形容するだけの答えは不可。

* 「げなる」の外見についてのことであるという語感を外していれば、1点減点。「いやな」「気持ちの悪い」など、主観的な心情のみはこの減点の処理をする。

2. 「を」の格助詞を「を」と訳せていなければ、1点減点。

3. 「を」の前に文脈にふさわしい名詞の「着物」を補っていないければ、1点減点。

イ 3点満点

1. 「具して」を「一緒に、そろえて、一具にして」などと訳せていなければ、3点減点。

* 文脈に合うように、十二単衣、上襲、桂、袴という着物の一セットを目的語に取るように訳せているかを見る。「引き連れて」「連れて」など人物を目的語に取るような訳は不可。

四 (14点満点)

1. 和歌「思ひきやくとは」の「予想外であった、思いもしなかった」という内容がなければ、4点減点。

2. 和歌「身を海士人に成し果てて」の「海士に身を落とした」という内容がなければ、3点減点。

* 身分に関する指摘をして、卑しい身分になるということを指摘できているかを見る。

3. 和歌「刈藻をひとり明かすべし」の「刈り取った藻で独りで火をともして過ごす身となる」という内容がなければ、3点減点。

* 従者もなく、しかも、藻で明かりをとるしかないという卑しい暮らしぶりの指摘がなされているかを見る。

4. 「嘆く、悲嘆する、悲しむ」など、心情の明示がなければ、4点減点。

五 (12点満点)

1. 「卑しい自分を想像させる住処なのに」などとプラスの評価に逆説的につながる内容がなければ、3点減点。

* 「不思議」と思いう上で必要な要件が書けているかどうかを見る。「ほら穴暮らしなのに」「貧しい住居なのに」「いかにも貧しい岩屋に」など、卑しい身分のはずと想定させる記述なら幅広く可。

2. 「美しく」という内容を補っていないければ、3点減点。

*「髪の懸かり、口つき、いづくも愛敬がましき体の、輝やく程の気色」という本文の描写を踏まえた記述かどうかを見る。

3. 「高貴な出である」という内容がなければ、3点減点。

*十二単衣、上襲、袿、袴など貴族の子女が着るような物を干していることからの推測が書いているかどうかを見る。「高貴な」「身分が高い」「雅な」などの指摘があればよい。具体的な着物云々の記述のみであれば、2点減点。

4. 「教養も信仰も備えている」という内容がなければ、3点減点。

*「信仰」は必須ではなく、「教養」「趣味」「風流を解する」などと指摘できていればよい。具体的な書や映画、花、経典、数珠の記述のみであれば、2点減点。

5. 「姫君のどんなところを」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

六 (8点満点)

1. 「相愛の者になりたい」という内容がなければ、5点減点。

*「相愛の者」は互いが愛し合っていることわかる表現であればよい。

*事実ではなく、願望であることが示せていなければ、2点減点。

2. 「中将が姫君と」という主語・目的語の人物関係がなければ、3点減点。

*主語・目的語のどちらかのみであれば、2点減点。

3. 「どういふことが」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

七 (12点満点)

1. 「始終の人」を「終生、添い遂げたい相手」などと訳せていなければ、3点減点。

*「終生」「生涯」「この先ずっと」「添い遂げたい」など「始めから終わり」の時間のニュアンスを踏まえていなければ、2点減点。

2. 「と覚しめされば」の「と覚しめされ」を「とお思い」「とお思いにならざるを得ない」などと訳せていなければ、2点減点。

*「と」は「こと」などとしても許容。

*「覚しめさ」の尊敬語が訳せていなければ、1点減点。

*「れ」を可能で訳してある場合は、1点減点。

3. 「と覚しめされば」の「ば」を「なら」「たら」など仮定条件で訳せていなければ、1点減点。

4. 「と覚しめされば」の主語を「中将様は」と補えていなければ、1点減点。

*「あなた」などの二人称でも、身分ある中将を呼び捨てで補ってあっても許容。

5. 「と覚しめされば」の目的語を「姫君を」と補えていなければ、1点減点。

*「姫君」とせずに「覗き見た女」など、まだ素性のわからない者として書かれていても許容。ただし、その場合は「覗き見た」「今、見た」など場に相応する限定が必要。

6. 「夜は」を「今夜は」と限定できていなければ、1点減点。

7. 「帰らせ給へ」を「帰りなさい」などと訳せていなければ、2点減点。

*「帰ってください」と訳してある場合は、2点減点。

*尊敬語の訳がない場合は、2点減点。

8. 「帰らせ給へ」がどこからなのかを示す「姫君に会わずに」などという内容がなければ、1点減点。

問題三 (三〇点)

〈漢文 『広異記』〉

解答

- 一 少遊は魂を指差して客人だと言い、水を召使いに持って来させ、客人に与えさせた
- 二 このひとをしるやいなや
- 三 寿命がほどなく尽きると占った相手が実は少遊自身の魂で、その魂が自分を捨て去ったことを召使いの報告で知ったから。

採点基準

採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

一 (8点満点)

1. 「少遊指_レく為_レ客」を「少遊は_くを指差して客人だと言い」などと訳せていなければ、2点減点。

*「指_レく為_レく」を「_くを指して_くと示し」と、「指」が「指さす」という動詞で、かつ「指」「為」両者を連動させた訳ができていなければ不可。

2. 「神」を「靈魂」「魂」などと訳せていなければ、3点減点。

*「精神」「神」「神靈」「幽霊」は不可。

3. 「令_二持_一与_レ客」を「(水を召使いに)持_二つて来させ、客人に与えさせた」などと訳せていなければ、3点減点。

*使役の句法を踏まえ、「持」「与」の行為者が少遊でないとわかるように訳せていなければ、不可。つまり、少遊が「客人に水を与えた」としか読めないものは不可。少遊が主語とも読めるし、そうでないとも読める曖昧な場合は許容。

4. 「令_二持_一与_レ客」で「持」「与」の目的語を「水を」と補っていないければ、1点減点。

*「持」「与」の行為者「家人」の補いは不問。

二 (6点満点)

「この心とをこるやいなや」

*返り点通りの語順で訓読されていなければ不可。

*漢字の読みと送り仮名の誤りは、「否」を除き、漢字一字につき2点減点。

*「否」を文末用法として「_くやいなや」と読めていなければ、3点減点。

*すべて平仮名で解答していなければ不可。

三 (16点満点)

1. 「魂が自分を捨て去ったことを召使いの報告で知った」という内容がなければ、6点減点。

*傍線部直前「神捨_レ我去」を踏まえていなかったら、不可。踏まえてあって「神」の解釈が誤っている場合は4点減点。

*「わかった」「知った」「思った」など、少遊の判断が主観だということを示す記述がなければ、2点減点。つまり、「魂が少遊を捨てた」ことを事実としてのみ書いてあるものは駄目だということ。

2. 「占った相手が実は少遊自身の魂で」という内容がなければ、5点減点。

*「神」の解釈が誤っていれば、ここでも4点減点。

*「占った相手」は「客人」等でもよい。この相手が「少遊そっくりだった」などとして、「神」への言及がない場合は不可。

3. 「寿命がほどなく尽きると占った」という内容がなければ、5点減点。

*本文「今日の暮れに尽く」を踏まえた内容が書いていれよ。

4. 「なぜか」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

*「…から。」等を許容する。